

平成30年度 第2回国立市環境審議会 会議録（要点筆記）

開催日時	平成30年8月7日（火）午後7時～8時30分
開催場所	市役所3階 第3・4会議室
出席者	亀山会長、松本委員、服部委員、野村委員、佐伯委員、田中委員、橋本委員、 大塩委員、石川委員、倉本委員、扇田委員 事務局（清水環境政策課長、長野環境政策係長）
記録・受付	環境政策係木村主事、岡埜主事
傍聴人	なし

1. 環境基本計画進捗状況の点検・評価

【事務局説明】

前回の環境審議会での意見と対応について説明した。

【亀山会長】P.8について、「具体的な施策：河川・水路（用水路）を活用した生き物観察会など、自然にふれあえる機会の提供」の「生き物観察会」という記載を）場合によっては削除するとのことだが、そもそも削除できるのか。環境基本計画に書いてある記載は削除できないのではないか。

【事務局】P.7とP.8は、1つの施策を複数の課で実施している場合の記載です。南部地域まちづくり課では、生き物観察会などの「など」の部分で、自然にふれあえる機会を提供するというので、体験学習会を記載しています。分かりづらいのであれば環境政策課のみ記載を残します。

【亀山会長】環境基本計画の枠組みがあるから削除できない。もしも、中身として何も実施していないのであれば、実施していない旨を書いた方が良いのではないか。

P.12については、（土地所有者の）全員に対しては働きかけられないので、実施しないということなのか。

【事務局】緑地保全地区指定は、ハードルが高いという認識です。しかし、自然環境を守るためには何らかの方法で公有地化を図っていきたいと考えています。

【亀山会長】なぜハードルが高いのか。

【倉本委員】これまでに緑地保全地区指定ができた土地はあるのか。

【事務局】ありません。

【倉本委員】緑地保全地区指定をしようとしたことはあるのか。

【事務局】あるようですが、可能性があるのは青柳崖線だと考えています。しかし、土地所有者が複雑に入り混じり、狭い範囲の土地もあります。指定するには、一定規模の広さが必要と思われるので、なかなか進んではおりません。

【亀山会長】地権者の同意が得られた土地から、順番に指定していくという方法もあるのではないかと。

【事務局】崖、水路や田んぼといった谷保の原風景のような場所と、大きな道路やコンクリートがある場所を同じように扱えるかということ、難しいと考えます。いずれにしても地権者が

いらっしゃる話ですので、まずは地権者と情報共有をしていきたいと思います。

【倉本委員】私の勤務地の自治体では、1,000㎡以上の樹林地について全てカルテをつくり、その中から候補地として条件が整っている土地を選び、優先順位をつけて指定するようになっている。国立市でもこういった土地を指定したいという姿勢を示していただきたい。

【亀山会長】指定出来そうなところから順に指定していくと良いのではないか。(指定された土地が)点在していても後々一緒にしていけばよい。実施していくことに意味があるのではないか。

【橋本委員】市で考え方の整理がまだできていない。緑地保全地区のあり方から整理する必要がある。ハードルの有る無しではなく、方針を作るところから整理していきたい。

【大塩委員】目的は自然の保存かもしれないが、崖が崩れる危険性もある。大学通りが重点地区候補としてあった。とりあえず市としては候補地ということをアピールしたらどうか。

【事務局】検討します。

【亀山会長】P.49以降で何かご意見はないか。

【大塩委員】P.46に戻って自転車駐輪場の話になるが、大学通りに設置されている(一橋大学に隣接した)無料駐輪場がある。この駐輪場は、あくまで臨時であるはず。いつになったらなくなるのか。JR中央線高架の下に代替地ができたから、大学通りの駐輪場を原状復帰させたらどうだろうか。いつまで臨時で設置していくのか疑問だ。

【事務局】担当課に確認します。

【亀山会長】P.57の電磁波について、国立市では市民が関心を持っていて、携帯電話の基地局を建てることに對し、電磁波問題があるから建設反対という方がいる。関心は高いと思われるが、あまり実施していないのはなぜか。

【事務局】近年、電磁波については問い合わせがない状況です。最近、新しく携帯電話の基地局を設置したいという業者があったため、周辺住民へ丁寧に説明するよう話をしました。

【大塩委員】環境ネットワークの立ち上げの際、電磁波に関する団体の代表者がいたが、その後、会議に出て来なくなった。会議に行っても対応してもらえないので自分たちで考えるということなのか、それとも時間がないのか。言いたいことはあるのだろうが、反応してくれないので、あきらめている部分もあるのではないか。(団体に対し)最近の状況について確認はしているか。

【事務局】確認しておりません。

【大塩委員】市内でのソフトバンクの電波は弱い。都市部において、国立市がつながりにくいのは有名なようだ。アンテナ基地局を建設できないからかもしれない。

【服部委員】電磁波が体に影響があるのではないかという話について、自分は電磁波で地下構造を調べるのが専門である。電磁波は電車、高压電線などから発生していて、我々は電磁波がありふれた状況で生活している。電磁波は人体に有害ではない。ペースメーカーの近くだと影響があるかもしれないため、優先席の近くで携帯電話を使わないような注意喚起はあるが、それもよほど近づかなければ大丈夫だ。ただ、テレビが映らなくなるということはあるかもしれない。

【大塩委員】因果関係がよくわからないけれども、江戸街道沿いの高压線の下に住む人が、ガンで亡くなっている。他の場所より統計的に多いのが不安だ。指で数えられるほどガンで亡

くなっている方が多い。

【野村委員】個人的にアマチュア無線を行っていたことがあり、電磁波の影響をTVの映りで感じたことはある。ただし、現実問題として、(電磁波が人体に影響を与えるという)検証されたデータもほとんど無く、実質的な障害の話も聞かない。(電力会社が)高圧線の下に住民には、迷惑料を払っているそうだが、これは上空を自由に使えないということに対してのもの。宇宙空間における太陽からの電磁波は危険という認識はあるが、地球磁場が遮っている。例えば、携帯電話を小さい頃から使用している若い方のガンの発生率が高くなっているというデータは、個人的に知る範囲では見られない。

【亀山会長】P.60以降で何かご意見はないか。

【大塩委員】P.60で国立市の街路樹の処分費用はどれくらいなのか。処分に伴い排出される二酸化炭素の量の統計数値はあるか。

【事務局】ありません。

【大塩委員】数値がないと削減目標も立たないのではないかと。私はくにたちさくら組で活動しているが、伐採したものを遠方ではなく市内に置き、ボランティアが木を削ってベンチを作っている。伐採した木を遠方まで運ばないので費用もかからないし、ベンチも新しく作らずに済むから節約になる。造園経費が毎年いくらになるかは分からないが、温室効果ガスをいくらか削減できる考え方としては、新しい視点ではないかと思う。処分費用と温室効果ガスの排出量を一度、試算していただければと思う。

【亀山会長】お話ししていただいた視点では、この計画は作られていない。今回という話ではないが、次の計画策定の際に作り方を変えるのも1つの考え方だと思う。事業系のごみとして、樹木の枝葉についての処分費は調べれば分かるのではないかと。

【事務局】確認します。

【服部委員】P.63でごみの有料化に至るプロセスがあると思うが、突然評価が「1」から「5」になっている。委員会などで検討をされ、有料化が実現したのであれば、「1」ではなく「3」や「4」ではないのか。また、どれくらいごみが削減できたか定量化してほしい。

【事務局】平成29年9月にごみの有料化を行いまして、前年の同じ時期と比較しますとマイナス12.6パーセントでした。国立市の場合、有料化以前に様々な取組でごみ減量を行ってきました。最後の一手ということで有料化したとのことでした。

【松本委員】(ごみ袋は)45リットルでいくらになるか。

【橋本委員】1リットルが2円なので、45リットルだと90円になる。近隣市と比較しても値段は平均的だと思う。

【亀山会長】私の住む自治体は随分前に有料化したが、通常40から50パーセントくらいごみの量が減る。

【大塩委員】(有料化以外の)様々な取組というのは何か。

【事務局】環境センターなどでの資源物のリサイクルの取組が大きいと考えられます。市としては(施設に)正規職員を配置して、ごみのリサイクルを徹底しています。

【橋本委員】市民の方々には、ごみの分別をしていただいております。市はその啓発もしてきました。分別をすることで、ごみの資源化もしやすくなる。国立市の大きな特徴のひとつだと思う。例えばミニキエーロといって、中に生ごみを入れて土をかけるとごみが消えていくと

いうものがあり、モニターとして何百人も体験していただいている。

【大塩委員】（ミニキエーロは）冬に使うのは難しい。ハエが出てきたりすることもある。

【橋本委員】生ごみによって残りやすいものがある。冬場は難しいかもしれない。各地域でご意見をいただいている。成功例の共有など今後工夫していきたい。

【石川委員】自分のやり方が悪いのかどうか分からないが、生ごみを入れるのは怖いので、刈った草を入れている。

【橋本委員】こうやったらうまくいったというものについては、情報提供をしていきたい。

【野村委員】たまねぎの皮やとうもろこしの芯はなかなか消えない。（ミニ・キエーロで微生物により分解されて消える生ごみの）種別については、市のほうで周知した方が良いかもしれない。様々な菌が増殖しやすい（栄養素の種類が多い）生ごみでないと分解は難しい。塩鮭など塩分濃度が高すぎるものだと、微生物が成長しにくいため分解しにくい。

【石川委員】塩分が濃いのは（土壌として）植物にもよくない。

【野村委員】農家が使うコンポストでは、トマトなど（水分の多い物）を入れても、分解がうまくいっていると聞く。会社の食堂で出た残飯を社内で肥料化し、近隣に配布した時期もある。現在は、置くスペースがないため実施していない。市も昔、実施していたかもしれない。色々なごみが入っているから、上手く分解できるという面もあるのではないか。

【亀山会長】以前、私は長野県の標高 800 メートルのところに 20 年間住んでいたが、生ごみを出したことがない。（コンポストに）生ごみを入れれば常に消えていく。冬はマイナス 20℃になるような場所だが、土中は暖かい。

【野村委員】表面に霜がついていても、微生物が働いていれば、発酵温度があるため、土の中心部は暖かい。

【亀山会長】持論だが、50坪以上の家庭には、生ごみを回収しにいかないというのはどうか。私は生ごみを庭に埋めてしまうので、生ごみを出していない。

【松本委員】P.70の平成25&26年度の評価「3」から翌年以降、「2」に下がっているのはなぜか。

【事務局】平成25&26年度は現在の基準がなかったためです。環境配慮契約の方針は、電力については策定済みですが、他は手が付けられていません。ただし、全庁的に環境に配慮したものを購入するように心がけています。

【野村委員】方針を作った方が良いのでは。

【松本委員】検討した方が良い。

【野村委員】ただし、そうした環境に配慮したものについては、価格が高い。

【松本委員】最近だとエシカル消費（地球環境や社会貢献などに配慮したモノやサービスを積極的に消費する行動）という考えも出てきた。市では紙は再生紙を使うなど配慮しているか。

【事務局】一部を除き全庁的に再生紙を使っています。

【扇田委員】P.79、80「雨水浸透ますや雨水貯留装置設置の普及に向けて支援」について、雨水浸透ますと雨水貯留装置を（担当課が異なるなら）別々に分けて記載できないか。また、P.81について、浸透性インターロッキングは間違い。透水性インターロッキングだ。

- 【事務局】 前回までは1つの施策に複数の課がぶら下がる形でレイアウトしていましたが、今回5年間の評価を全て載せるために、ひとつのページでひとつの課となるようにしました。
- 【橋本委員】 レイアウトについては、課題として整理する。
- 【倉本委員】 P.78の地下水脈調査を実施するにあたり、地下水の量と質で考える必要があると思う。有機塩素系物質調査はしているようだが、何か水に関する総合的なものを作ってほしい。地下水の湧き水は水資源として重要なものなので、大きな問題としてとらえてほしい。
- 【事務局】 市では平成21年に水循環基本計画を策定し、地下水から河川、水道、防災まで水について総合的に取り組んでいます。平成28年度に時点修正しました。
- 【倉本委員】 環境基本計画の下に水循環基本計画が位置づけられているのか。
- 【事務局】 はい、その通りです。個別の計画を策定した後に、環境基本計画を策定したため、順序が逆になっています。
- 【倉本委員】 この環境審議会では、環境基本計画の進捗を確認しているが、水循環基本計画の進捗は確認しているのか。
- 【事務局】 庁内連絡会を設置して進捗を確認しています。
- 【亀山会長】 P.89以降で何か意見はあるか。
- 【服部委員】 P.67のごみの減量についての話で、総合5年間の項目で「②H29の資源回収量は1,191tで、H25年度(1,332t)よりも『増加』した。」とあるが、『減少』の間違いではないのか。
- 【事務局】 その通りです。訂正いたします。
- 【松本委員】 P.85、86について、事業者向けの取組として、市は補助金を出せないかもしれないが、国や東京都の省エネ設備に対する補助金関連情報を発信した方がよいのではないか。今年度、国や東京都の補助金は、予算が多く手厚いものになっている。
- 【事務局】 昨年もご意見をいただいております。対応すべきと考えております。
- 【亀山会長】 P.90以降で何かご意見はあるか。
- 【大塩委員】 P.91について、平成29年度は評価が「4」であり、評価の理由が「①小学校のカリキュラムの中で(中略)地球環境の保全教育、エネルギー教育等を実施している。」とあるが、実際は教育できたのか。「②概ね全ての児童・生徒が何らかの環境教育を受けられている。」という表現は、甘すぎるのではないか。総合5年間については、概ね達成されたということでよいのか。具体的に、明確にした方がよい。
- 【事務局】 担当課に確認します。
- 【亀山会長】 (環境教育として) シンポジウムを開いてみるのはどうか。
- 【事務局】 生涯学習課が所管する「わくわく塾」というものがあり、各課の講座メニューのリストがあります。ホームページでも公開しています。
- 【橋本委員】 地域の人材を登録して運用していく体制はまだ構築できていない。
- 【亀山会長】 人材をリストアップして全庁的に共有しておけばよいのではないか。
- 【橋本委員】 生涯学習課に話をしてみる。
- 【亀山会長】 環境部門でできないのか。
- 【橋本委員】 全庁的になると取りまとめる部署が必要になり、(わくわく塾で既に取りまとめている) 生涯学習課が取りまとめるのがよいと思う。

【大塩委員】市職員はスペシャリストになる必要はなく、(地域にいるスペシャリストである)人材をマネジメントできればよい。

【松本委員】他市では市民大学などもあり、市民の方々に学びの場を提供している。

【服部委員】松本先生に再生可能エネルギーのお話しをしてもらうのはどうか。(自分としては地中熱が専門なので)地中熱利用の話がしたい。

2. その他

【大塩委員】P.87の○には、何が入るのか。

【事務局】「5084.6」t-CO₂、「11」%の「増加」です。

次回の資料は事前に送るようにします。第3回環境審議会は9月18日(火)に開催します。

【野村委員】ごみの減量について、市は自前の焼却施設がない。そこで、可燃ごみを集めて近隣4市で運用している焼却施設(多摩川衛生組合)に搬入し、燃やしてガスタービンで発電して余剰電力を常時売電している。その後の排熱については、病院等の熱源にしている。さらに、焼却灰はセメント原料にしており、直接のごみ減量ではないが、十分な環境配慮ができていると思う。

【扇田委員】P.71のエコセメントについて、自分で出したごみを焼却してできた焼却灰が、どういった形で還元されているか学んだ方が良くと思う。

以上